

市民フォト

No.18

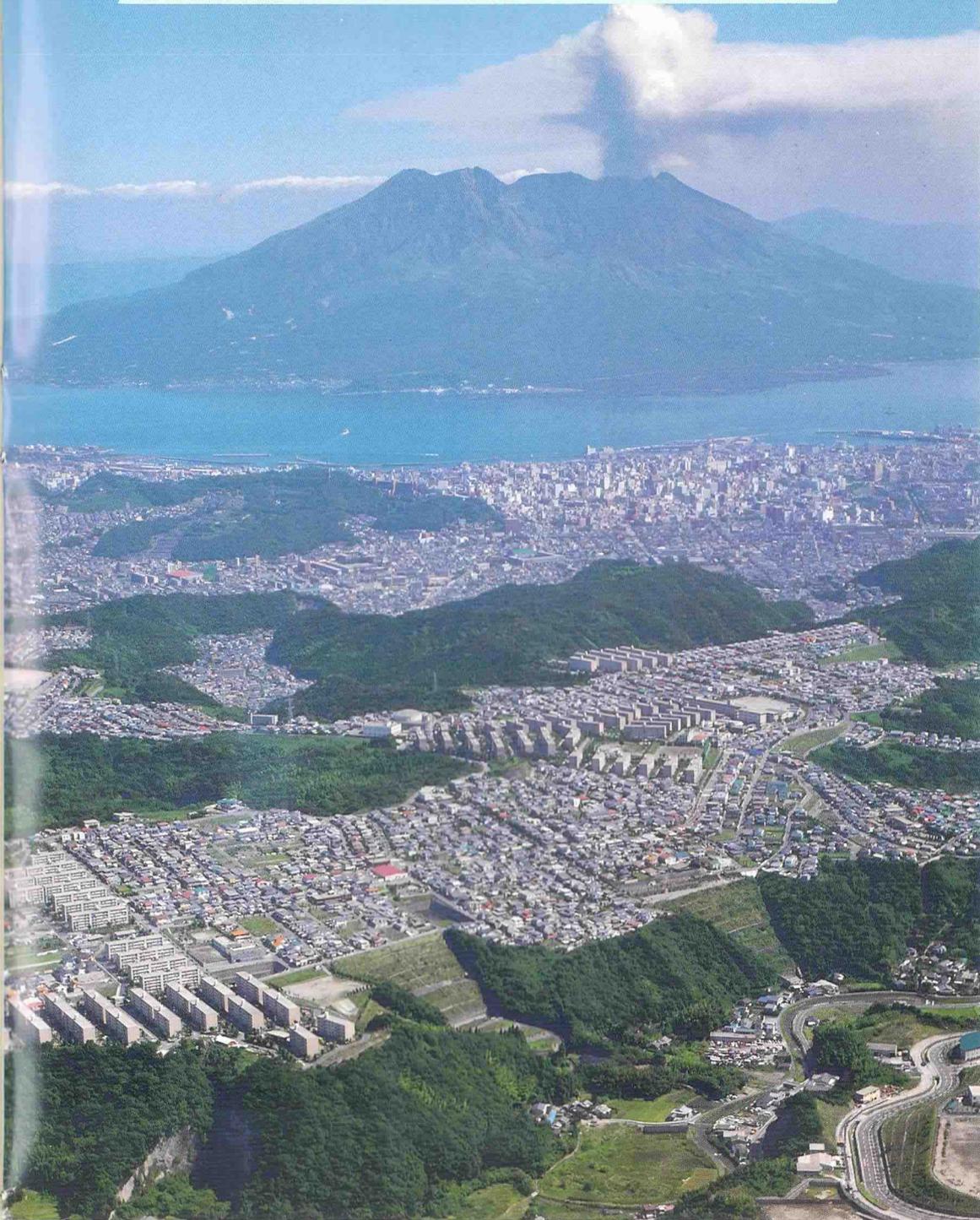
昭和59年9月1日発行

モータースポーツ、トライアル。ジャンプ
ターン。カラフルなユニホームが荒地を
駆け回る。バイクの音が辺りに響く。ヘル
メットを取った後のさわやかな顔、顔。
私も走ってみたいくなりました。(写真はミス
鹿児島島の西村泰喜子さんと南九州ヤ
マハレーシングクラブの皆さん)

鹿児島島



わかまち高度350メートル



武岡団地付近

市内のほぼ中心に位置する武岡団地、隣接する武岡ハイランド。その広さは約百二十ヘクタール。庭付きの一戸建て住宅が整然と並ぶ。現在、約四千世帯、一万四千人。市営住宅もかなり見える。

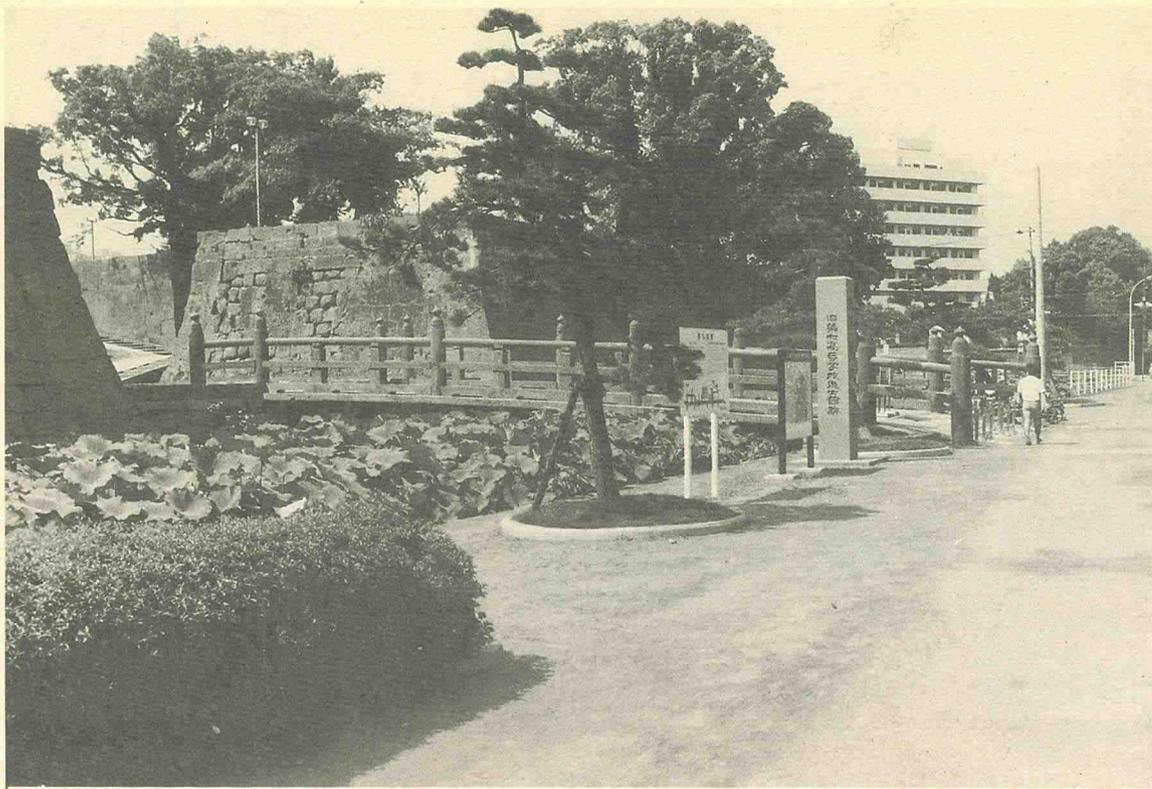
井線は、団地の北に沿って伊集院へと続く。また、団地の南の下を建部神社付近へと貫く国道3号バイパスの武トunnel（全長千五百メートル）が、数年後には開通する予定だ。

妙円寺詣りで歩く市道水上坂横

もくじ

わかまち高度350メートル	2
特集・古い道「鹿児島の馬場」	3
クローズアップ（坂井貞夫さん）	10
学校探訪（中山小学校）	12
ふるさとの史跡（福昌寺跡）	15
集えば楽し（鹿児島ビッグバンドクラブ）	16
市民のひろば	18
ハロー鹿児島（A・M・アウングさん）	21
あなたのフォトサロン	22
働くことの喜び	23
港、みなと	24
わたしの散歩道（照国神社と城山）	26
カメラトピックス	28
あの店この店（さつま首人形「鹿島」）	29
市立美術館（裸婦座像）	31

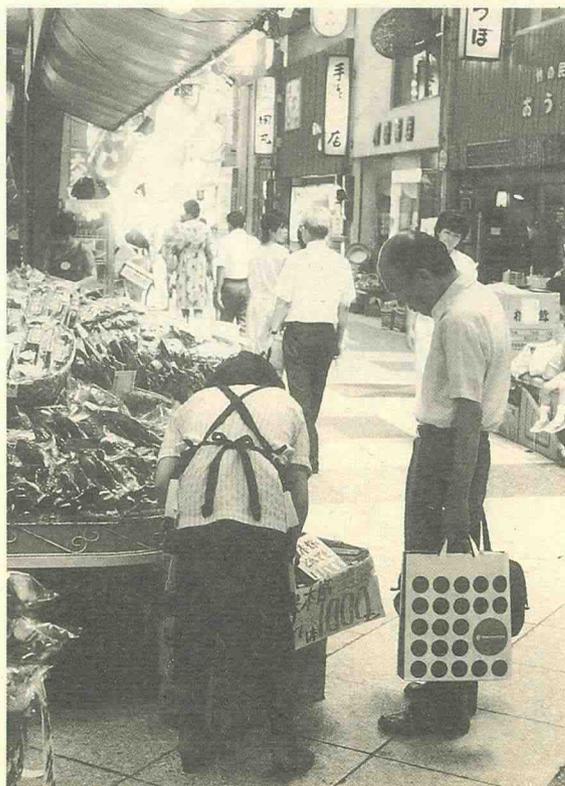
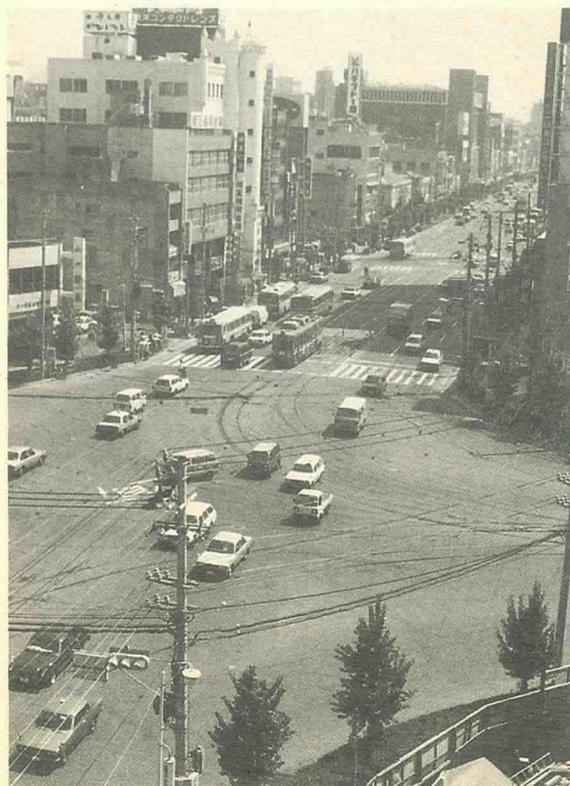
特集——古い道「鹿児島島の馬場」



わが街の古い道、それは私たちの祖先がつくり使ってきた道です。

一六〇二年、島津氏が鶴丸城を築いて内城から移った時に行われた城下町づくりが、都市計画による道づくりの始まりといえるようです。以後、政治・経済・文化の発展、特に交通機関の発達とともに、時代時代の人々の営みに応じて道は広げられ、工夫されて、整然とした道に変わってきました。

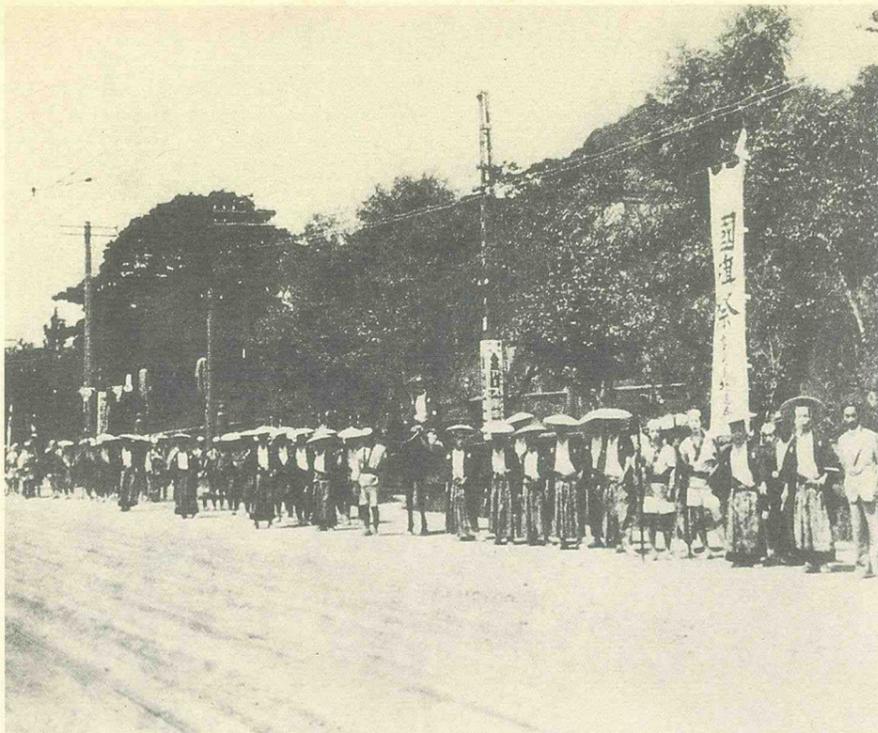
先ごろ、鹿児島南ロータリークラブの手で、昔を知るしるべとして町角に「古い道」の石碑も建てられています。ふだん、何げなく通る私たち。暮らして深いかかわりをもつ、わが街の歴史を秘めた古い道「馬場」について特集しました。あなたも、この機会に先人の営みに思いを巡らしてみませんか。



館馬場界わい

●県立博物館前～長田陸橋入り口

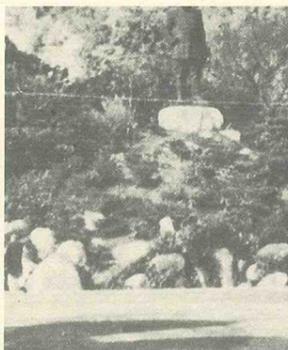
名前の起りは、島津氏の御館
鶴丸城前であったため、といわ
れ、屋形馬場とも書かれます。
江戸時代、造士館、演武館、町
座、寺社方、御記録所、御廩など
が並んでいました。



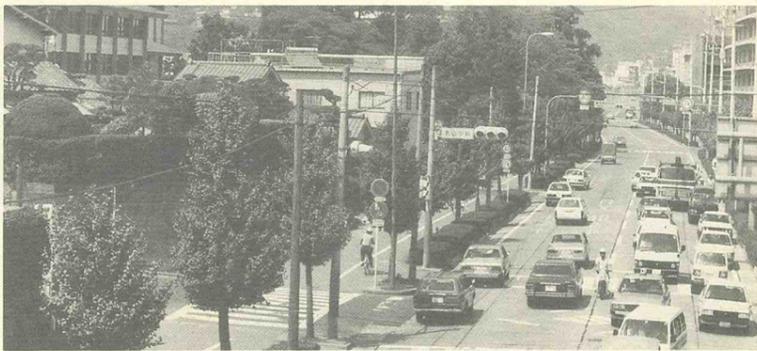
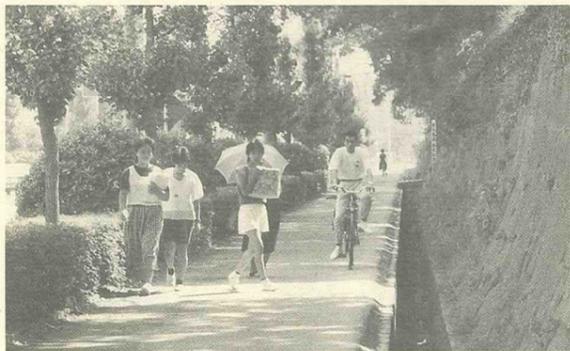
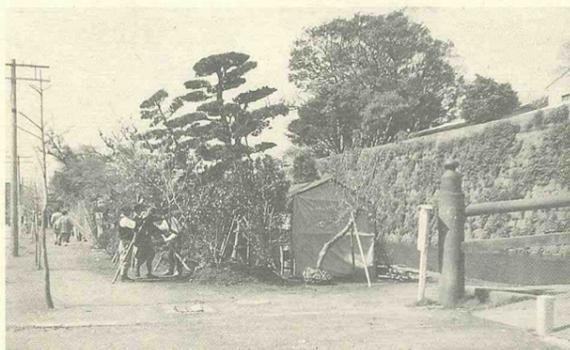
日の丸の国旗制定を記念しての大名行列



空襲前、西郷銅像前付近



昭和30年ごろの木市



お堀付近の木市を 散歩する人も多かった。



前田 シズさん
(当時、山下町在住)

昭和十一年ごろまで館馬場の近くに住んでいました。私の通っていた二高女は女子師範などと現在の名山小の所にあり、正門は館馬場側でした。始業の合図がラッパだったんですよ。

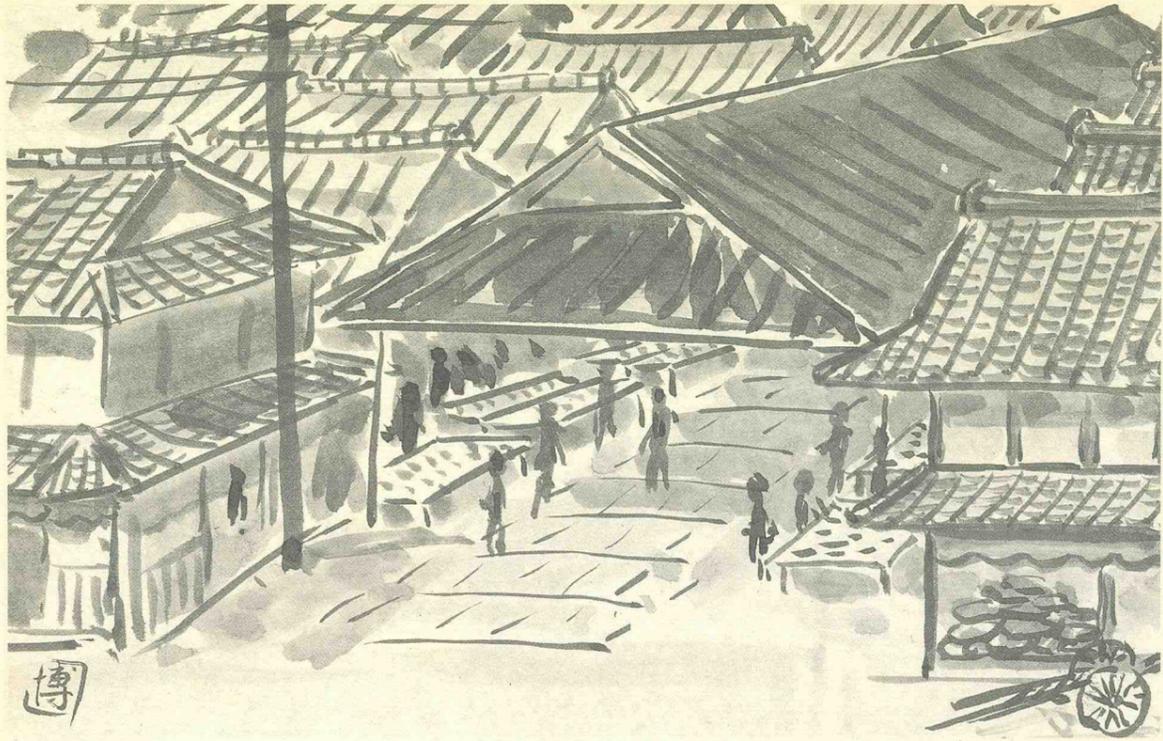
向かい側に七高があり、詰め襟姿の学生さんが多かったと記憶しています。やはり、女学生のあこがれのマトでしたね。

春に鶴丸城のお堀付近で開かれる木市には、昼休みに県庁や市役所(当時は市立美術館の所であった)の人たちが樹木をながめながら散歩してました。夏には、浮草のいっぱいあるお堀で、子供たちが魚やうなぎを釣る姿をよく見かけました。

西郷さんの銅像前の中央公会堂では、音楽会などの催し物がよく開かれていました。

納屋馬場界わい

●中町・柳月堂前～金生町・上野城金生店前



その名の起りは元和元年(一六五五年)、四十八人の納屋組(魚商組合)に市場を開く許可が出されたことから、といわれます。

以後、この魚市場は城下の台所として栄え、それぞれの時代の庶

民の姿を映してきました。

時の流れで魚市場は移転し、馬場に鮮魚は見られなくなりまして、威勢の良さは今に受け継がれているようです。

近くには俊寛の船出した所もある



俊寛之礎

生きのいい魚の 問屋が並んでいた。



谷川 栄吉さん
(当時、新町在住)

大正二年ごろから納屋馬場の魚問屋で働きました。商品はサバやイワシなどの大衆魚と塩干物。下関から貨車や船で、谷山からは肩に担って、生きのいい魚が来ていました。トタン屋根のアーケードの中が魚の店々で、木製の魚棚と石畳の道に商品を並べてね。

早朝六時から店開き。市内の小売店や町家の奥さん、遠くは国分、加治木の魚屋さんたちで大にぎわい。年中無休に近いのに、私も若さでよく頑張ったものです。

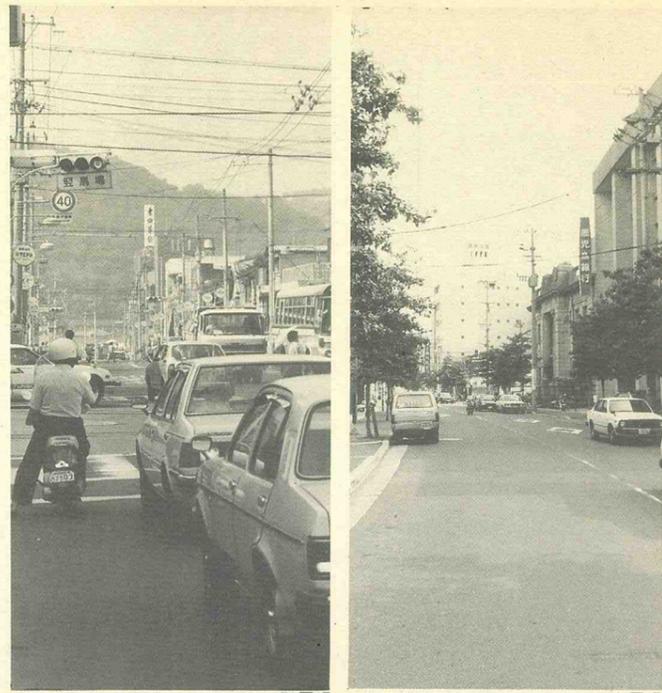
そう、魚の店は二十四、五軒ぐらい。カゴやザルを売る店も五、六軒。納屋と交差する赤練瓦の小納屋通りには一膳めし屋が二、三軒あって繁盛してましたね。

昭和十年に住吉町の海岸に中央市場ができ、納屋は今のような店々が並ぶ商店街に変わりました。



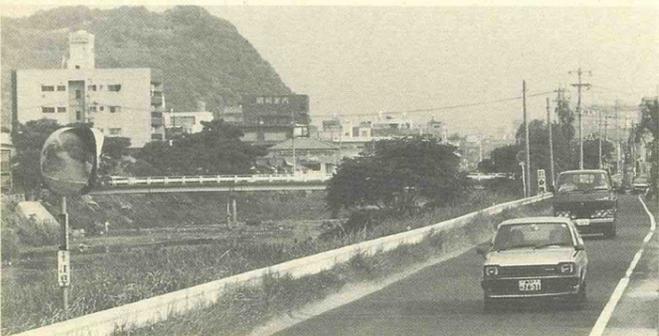
●馬場(名称と由来)

名称	区域	由来
すゝんばあ 諏訪馬場	清水町16-1戸柱橋～稲荷町25鳥越トンネル入り口	清水町電停近くに「南方神社」があるが、別名「オスワサマ」ともよばれており、この神社の名前をつけたという。
いんばあ 稲荷馬場	鼓川町1-5 野呂登店前～稲荷町34稲荷神社前	清水町横に稲荷神社があるが、この神社にちなんでつけられた名前である。また、この通りを「流鏡馬場」ともよんでいる。
ばじゅんばあ 坊中馬場	稲荷町大乗院橋～清水町7-8 水源地前	昔、この通りの両側に大乗院というお寺の支院が並んでいたことから、また、支院の中を通過していた通りということからつけられた。
ほんじゅじばあ 本立寺馬場	清水町11-25 岩崎邸前～清水町国道10号線	清水町公民館の下に島津家初代忠久から五代貞久までの墓がまつられていた本立寺があり、この寺の名前からつけられたという。
しみづばあ 清水馬場	清水町14-33 サンエー清水店前～清水町3-14一ツ橋	清水小学校正門近くにある「仁王堂水」がもたらされたといわれ、「清水がわき出るところ」ということから「清水」が使われた。
よんばあ 横馬場	春日町7-10黒葛原橋～春日町9-1 戸柱橋	諏訪馬場の横についている通りということからこの名前がつけられたという。
あいにばあ 家鴨馬場	池之上町1-1 田代宅前～池之上町6-24久保田宅前	この通りに沿って「家鴨川」が流れている。昔、この川にアヒルがたくさん泳いでおり、家鴨川といわれるようになり、この名がついた。
うえんばあ 上之馬場	池之上町8 若宮公園前～上竜尾町5-28都湯前	このようによばれているが、名前の起りについてははっきりしない。
だいにばあ 大竜寺馬場	大竜町大竜小前(南側)～南洲神社前	大竜小の付近に建っていた大竜寺がもたっている。島津家15代費久の号「大中」と16代義久の号「龍伯」からつたものという。
たてばあ 立野馬場	上木町市営バス「滑川停留所」～上竜尾停留所	昔、このあたりは「立野」とよばれたところで、この名前が生まれたという。浄光寺の参詣道であり、吉田方面からの道路でした。
ちやんばあ 茶碗屋馬場	柳町電停～長田町電停	堅馬場と同じく、早くから開けた道路で、長田町から上竜尾町のあたりは昔、「堅野」とよばれており、この名前がついたという。
やかんばあ 館馬場	長田町19上野邸前～長田町22-7理容山根前	このあたりは、島津家17代義弘が朝鮮から連れてきた人々が陶器づくりをしていたところで、この名前がついたという。
なやんばあ 納屋馬場	県立博物館前～長田陸橋入り口	この通りの西側、城山の麓に鶴丸城(御館ともよんでいた)があったことから、この名前がついたという。
なんしんばあ 南泉院馬場	金生町2-16上野城金生店前～中町7-4 柳月堂前	江戸時代、藩指定の魚市場として納屋組(魚商組合48名)に市場を開くことが許され、大変にぎわった。納屋組にちなんだという。
	照国町15-22 照国堂前～照国町照国神社前	江戸時代、いまの照国神社のところに南泉院という天台宗の寺院があったので、寺の前の広場(馬場)の名前になった。



堅馬場 広馬場

名称	区域	由来
せんごくばあ 千石馬場	西田橋左～照国町15-23 照国堂前	江戸時代、この付近には千石以上の上級武士たちが住んでいたことから、この名前がよばれた。
てんじんばあ 天神馬場	東千石町8-18大辻朝日堂前～西千石町3-32田中宅前	山下小学校の南西部に「萩原天神社」とよばれる菅原道真をまつる神社があったことから、この名前が生まれたという。
たかみばあ 高見馬場	市電天文館電停～高見橋(高見馬場通り)	高見馬場電停東側に坂道があるが、昔、この付近は今より高い場所になっており、遠くが見渡せたことから、この名前がついたという。
にほんまつばあ 二本松馬場	加治屋町中央高校正門前～山之口町文化通り	この通りから西の方にある武岡を見ると、武岡に大きな松の木が立っているのが見えたことから、この名前がついたという。
やんくつばあ 山之口馬場	千日町9-11地蔵角派出所前～山之口町4-27土肥石油店前	ここは昔、この付近にあった松原山への登り口になっていたので「登り口に通じる道」ということから、この名前がついたという。
うまのいばあ 馬乗馬場	加治屋町9-30南南科前～加治屋町9-18田中ビル前	江戸時代、このあたりに馬を洗うための堀があったという。この付近で乗馬の練習をしていたことから、この名前が生まれたという。
ひろばあ 広馬場	金生町5-11山形屋駐車場角～松原町14-19昭和大通り	明治のころまでは鹿兒島市の表通りで、電車通りができるまでは城下でも広い道路だったので、このようによばれた。
でんばあ 寺之馬場	南林寺町2 松原小前～城南町1 城南小前	この付近は江戸時代、南林寺をはじめ多くの寺があった。この名前は寺へ通じる通りということからつけられたという。
はなやんばあ 花屋之馬場	千日町13-4鹿銀天文館支店角～千日町13-14 上村内科前	この付近は松原山南林寺の墓地があり、墓地に参る人々のための花屋が並んでいたことから、この名前がつけられた。
うえんばあ 上之町馬場	中央町11-1鹿銀武町支店前～高麗町4-甲突橋まで	名前の起りについては、はっきりしない。
なかばあ 中之馬場	薬師一丁目11-1駐車場前～薬師一丁目13-15 肉のさとう前	名前の起りについては、はっきりしない。
やくしばあ 薬師馬場	薬師一丁目11-7鯉津町前～薬師一丁目13-9リボン洋裁店前	ここには昔、島津家の別荘があり、近くに薬草園があった。この薬草園の中に薬師如来像があり、これにちなんでつけられたという。
いしのつばあ 栢之木馬場	永吉町玉江橋～原良町300-31原良ゴルフセンター前	江戸時代、この道路沿いに多くの樅の木が植えられていたことから、このようによばれた。樅の木は薩藩の収入を増やすため植えられた。
ちやんばあ 茶屋馬場	谷山街道の中で、市電脇田電停から脇田川まで	江戸時代、この付近には馬乗り場や矢を射る練習場があり、また、のどを潤すための花屋や藩主専用の茶屋があり、この名がついた。
とらやんばあ 虎屋馬場	上本町3-18熊本屋前～上本町2-1 美恵荘前	名前の起りについては、はっきりしない。
いんのうばあ 堀之内馬場	長田町6-17岡元宅前～長田町7-4 市電ガード下	名前の起りについては、はっきりしない。



栢之木馬場



千石馬場

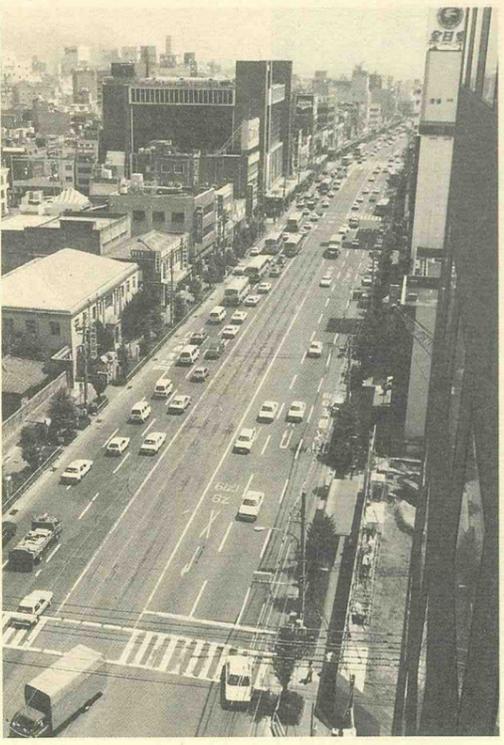
高見馬場界わい

●天文館電停～高見橋

名の起りには、今の高見馬場交差点の辺りが天文館や加治屋町方面に比べて高くなっており、四方をよく見渡せたことによる、といわれます。それを物語る坂道が付近に残っています。(萩原小路)



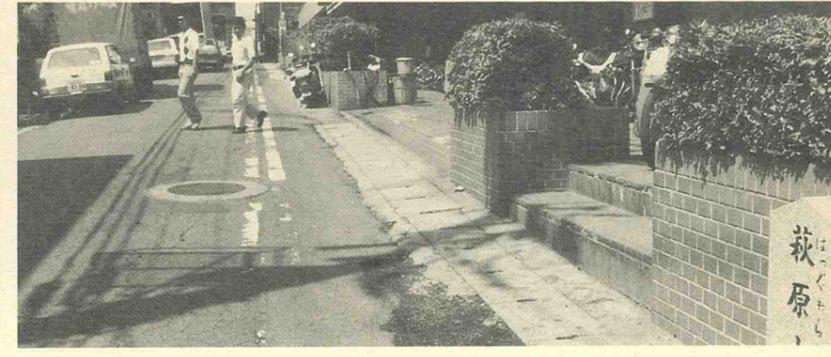
空襲被災前の天文館電車通り



り災前の高見馬場付近



昭和23年、国家警察発足のパレード



萩原

石堀の多い 静かな屋敷町だった。 山下小の二年生だったでしょう。天保山での演習帰りの兵隊たちがラッパを吹き鳴らして、高見馬場を通るのを子供心にながめてました。明治の末ごろでした。 当時、私は高見学舎(今の高見馬場電停近く)の舎生でしたが、舎の庭にある大きな榎によじのぼってよく遊んだものでした。 私の家と有馬どんの間を竹垣に囲まれた清滝川が流れてましたが、一帯は石堀の多い静かな屋敷町でした。戦災で焼失し、戦後は商業地区にガラリと変わってしまい、昔の面影はなくなりました。 昭和七、八年かな、私が七歳の教授として赴任してまもなくのころ、明治屋百貨店(今の中央ビル付近)で、けなしの金をはたいて、妻にキツネの毛皮の襟巻きを買ったことを懐かしく思い出します。



上村行徳さん(当時、西千石町在住)

天保年間 鹿児島城下絵図

（鹿児島市立美術館蔵）



古賀秋好さん

鶴丸城を軸に
碁盤目に道路が...

天保年間の鹿児島城下絵図などと現在の鹿児島市街図とを比べると、道幅など多少変わっているようですが、ほぼ鶴丸城を軸に碁盤目に道路を通してあります。その道路は昔、馬場・小路・通りと呼ばれていました。

馬場は、馬を乗り回せるほどの広い場所という意味で、広い路のこと、小路は道幅の狭い道という意味で、人が通れる程度の道のことをいい、通りは、割に新しい名称のようで、昔からあった道路名の下に「〇〇馬場通り」などと用いられてきました。

鹿児島地誌によると、明治二十二年の市制施行で鹿児島郡から四十七町三村を分離して鹿児島市の行政区域とし、馬場・小路・通りの後に町名がつけられました。明治三十二年には、これが町名から除かれました。

近ごろ、昔の地名を刻んだ石標を街のあちこちで見かけます。南泉院馬場など、昔ながらの鹿児島発音が今も生きているようです。鹿児島語は語尾が詰まったり、ラ行がア行に変化するため、県外の人には理解しにくいようです。稲荷川の上流にある稲荷橋の橋柱に「いなあばし」と刻まれていましたが、今は見当たりません。また、西田本通りから常盤町に入った所に筋違橋がありますが、知らない人には煤けた橋に聞こえます。

次に、広小路のことを年配の人は広口と呼びます。上町と下町を分ける小さな広場があった所で、今の東郵便局の北側の道路です。高札がたったり、軽い罪人の仕置場でもあったのです。近くには水道の高榎もありました。

この特集に掲載した古い写真等は次の書籍から転載しました。ご協力ありがとうございました。

- 「ふるさとの思い出写真集 明治・大正・昭和の鹿児島」
- 「鹿児島の路面電車50年」
- 「鹿児島(県政)35年のあゆみ」
- 「鹿児島市戦災復興誌」(中村日出男氏提供)
- 「納屋馬場のさし絵」(北山博海氏)

クロローズ アップ

社会に対するアンチテーゼか？
世間から飛び出し自分自身に「つもり
ながら、社会を鋭く見つめる。」

「三年前に依頼された人体骨格図が、まだ仕上がっていないんです。満足できないものですから」
商売っ気のない人だ。

●漫画家

坂井 貞夫さん

薩摩郡宮之城町出身。父親は警察官、七人兄弟の五番目として生まれ鹿児島の天保山中学校を卒業後、得意の絵で身を立てることを決意。新聞の四コママンガや広告の仕事な

ど多彩。今年度のベルギー国際漫画祭で大賞のゴールデンハット賞を受賞。鹿児島市城山町のアトリエ兼自宅に一人暮らし。四十五歳。

薬のカプセルに入った胎児、その他、シュールなタッチで現代社会を鋭く批判した五枚組の漫画で84ベルギー国際漫画祭グランプリ受賞の芸術家。
「ムムッ、これは手ごわいぞ」、そう思いながら鹿児島市城山町のマンション四階の住まいを訪ねた。ドアを開けた途端、「こ、これはすごい」、二間続きの部屋は足の踏み場もない。
テレビ、シンセサイザーからシンそして自作の絵画、オフジエ、極めつけは窓に掛けられたガイ骨の絵。

ここは、私の知っている世界ではなかった。「宇宙だ、宇宙だ」、まさに異次元空間に踏み込んだかのようだ。
部屋全体で、社会の混とんを表現している…、そんな作品の一つのようなアトリエに長髪にヒゲをたくわえ、そして、限りなく優しく、温かなまなざしの坂井さんが居た。サイフォンで沸かしたコーヒーが出され、名刺の交換。この時点ですでに完全に圧倒されていたが、早速、取材を開始した。「今回の受賞作品を見ると、社会

に対する批判のようですが？」
「批判ではありません。私は、単なる一個人が感じたままを描いただけで、そんな大それたことはしてません」。限りなく、大きさを感ぜさせる言葉だった。
自分が感じ、空想したままを「抑制のきかない」本音で描いているという。だから、大衆的ではないので売れてませんよ」と堂々と話してくれる。うがった見方をすれば、相当に自信を持った言葉だ。

以前、地元の新報に連載していたが、途中で下ろされた経験を持つ。「連載中は九〇％が妥協だった。私は、カタカナではなく、漢字で名のる漫画家だから」。

起きている時の大半は空想にふけり、自分自身を見つめている。生活できるだけ最小限の仕事をして、あとは自由にやりたい。でき



撮影/水谷 進

「自分を知りたいために、自分の中にあるものを表現する。頭の中に何かあるのかを探っている。自分を見つげ出すのが人生の目的かもしれませんね」と笑う。
計り知れないスケール、この世の人とは思えない、仙人だ。取材を終えて、忘れていた真夏の暑さに襲われ、現実に戻った。

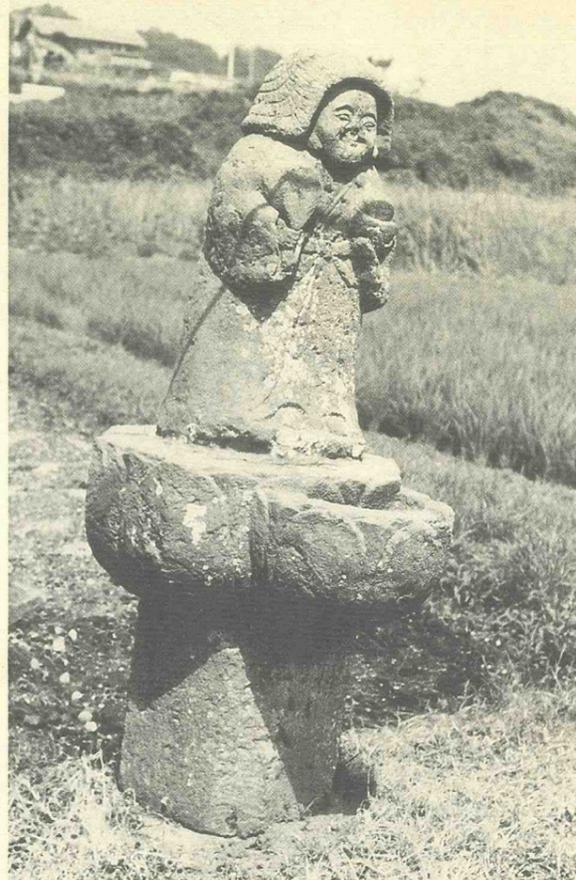
文/永吉周一
鹿児島テレビ放送記者



アスレチックのある「体育の森」



カライモ栽培に精出す4年生



田の神様も多い



草取りも自分たちの手で

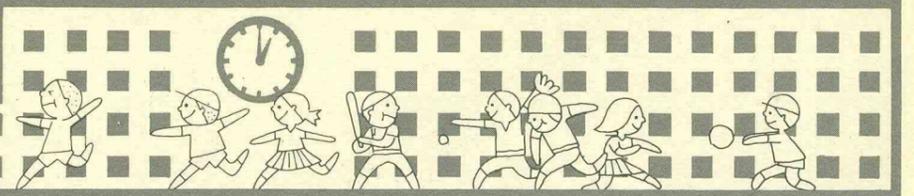
中山校区は、市内では農業の盛んな所です。校区内には田の神様もたくさんあります。わたしたちの学校では、毎年、五年生と六年生が米作りをしています。田植えから草取り、稲刈りまで自分たちの手でやります。また、四年生はサツマイモを植えています。

学校の近くの山には、アスレチックのある「体育の森」があり、毎日、交代で元気に登って体力づくりに励んでいます。

校内にホタルの宿があり、ゲンジボタルを飼育して観察を続けています。五月には学校で「ホタルを見る夕べ」も開かれます。また、クワガタやカブトムシを飼って観察しています。学校の中には、いろいろな花や木が植えられ、緑がいっぱいです。

このように、わたしたちの学校には自慢できるものがたくさんあります。これからも、すばらしい環境の中で、一生懸命勉強したいと思います。

学校探訪



中山小学校

●創立…明治20年4月 ●児童数…979人

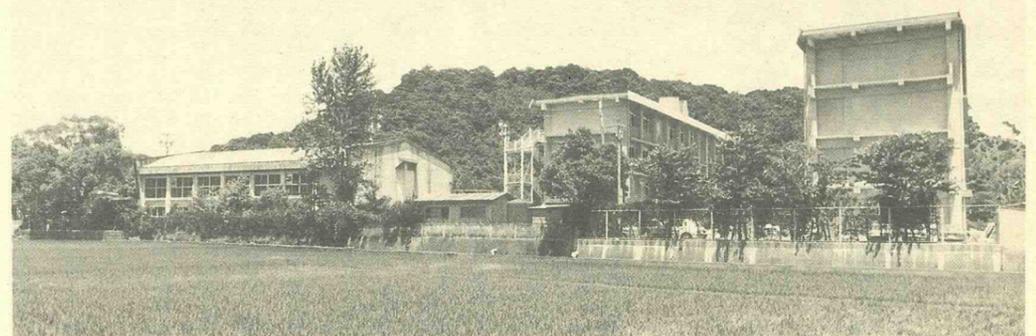


今年で創立97年を迎えた

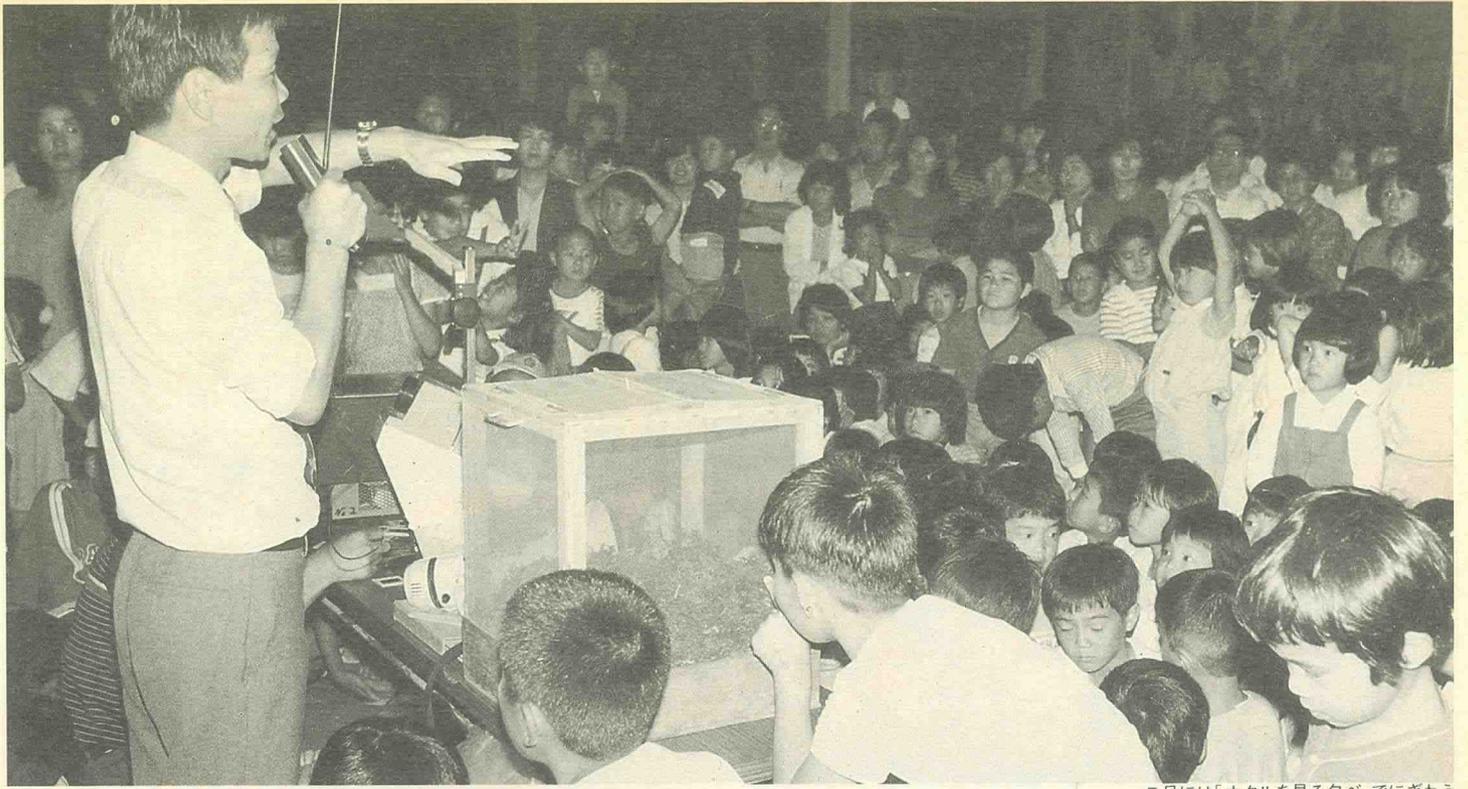
私たちの学校

六年三組 川上美和子

私たちの通っている中山小学校は、百年近い歴史を受け継ぐ学校です。市内の西部にあり、周りには山や水田に囲まれ、自然に恵まれています。



周りは山と田んぼ



5月には「ホタルを見る夕べ」でにぎわう



ホタルの幼虫観察も…



もやしっ子はいない



カブト虫の飼育は楽しい



一鉢運動も盛ん

ふるさとへの史跡



歴代藩主が眠る 福昌寺跡

県文化財保護指導委員

西元 肇

玉龍山福昌寺跡は緑濃い常安峰の麓にある。玉龍高校の名はこの山号からとったものである。

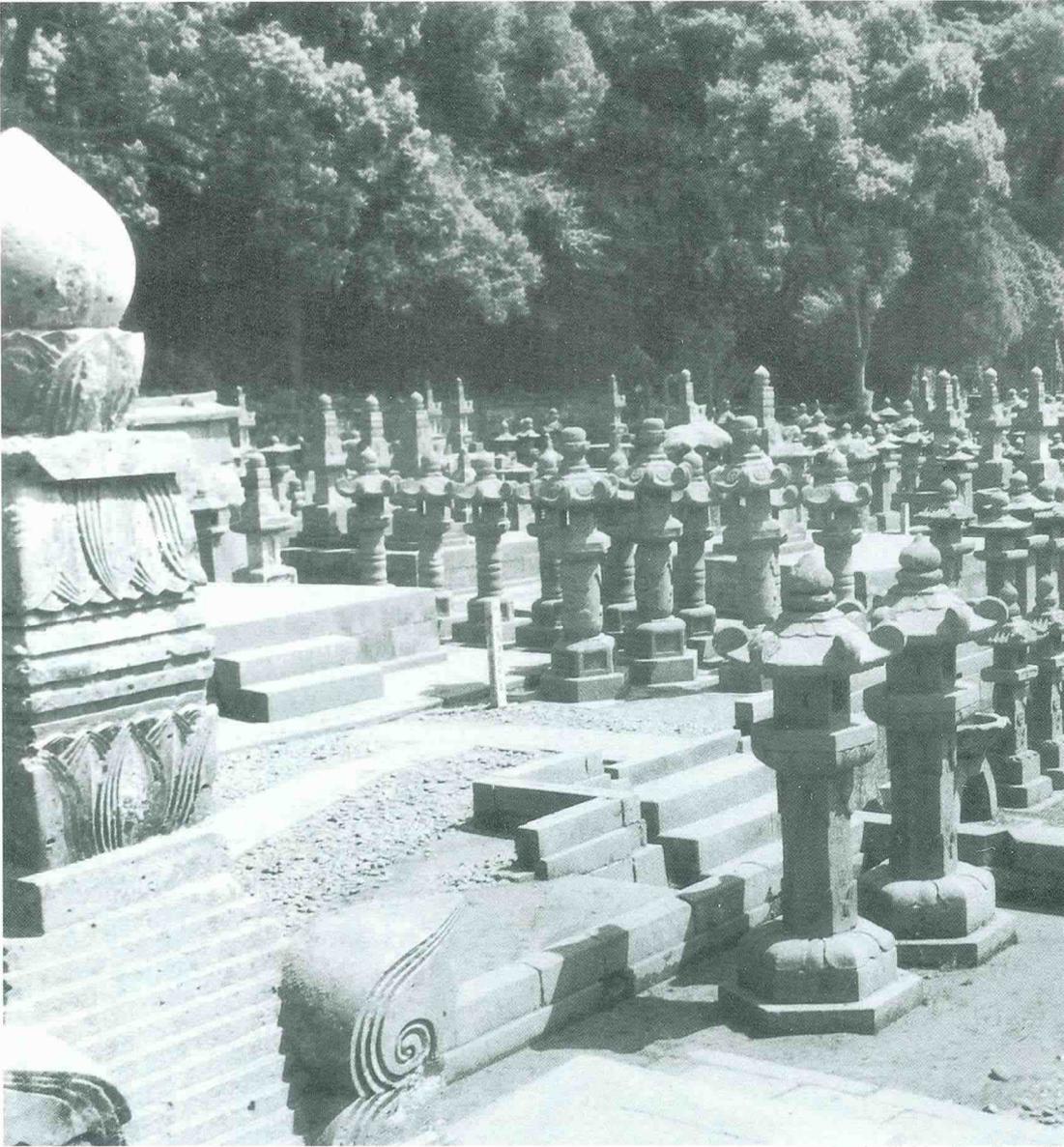
の師久、氏久から二十八代齊彬までの墓が並んでいる。墓の形、墓石の大きさ、葬り方などから時代の盛衰がしのばれる。東隅には島津家にいた犬の墓もあり、戒名が珍しい。

福昌寺は、島津氏七代元久が一三九四年(応永元年)に建てた禪宗の寺で、島津家一族をまつる菩提寺である。ここは薩摩藩の僧録所でもあり、千人以上の坊さんたちが修行していたといわれる。藩内最大の寺として栄えていたが、一八六九年(明治二年)の廃仏毀釈で姿を消した。

墓地のうしろの一段高い所に、福昌寺住職の墓が肩を寄せ合うように立っている。主な住職としては初代の石屋禪師、ザビエルと親しかった忍室禪師、西郷や大久保を指導した無参禪師らがいる。

玉龍高校の裏手には島津氏六代

住職の墓の少し上の木陰に苔むしたキリシタンの墓がある。明治の初め、長崎で捕らえられたキリスト教信者で、福昌寺に預けられ病死した人びとを葬った墓である。



常安峰(玉龍山)の麓は静寂が漂う



石屋和尚など福昌寺歴代住職の墓石

し 楽 ば え 集

～グループ紹介～



ジャズに

魅せられて

鹿児島ビッグバンドクラブ

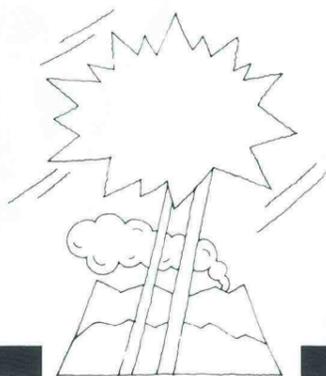
鹿児島ビッグバンドクラブ(リーダー・大重勝裕さん)は、ビッグバンドジャズに魅せられた者が集ったグループです。現在、メンバーは十八人。
ランペット、トロンボーン、サクソなど、十数本の金管楽器が一体になった演奏はエネルギーです。

「気心の知れた仲間だから、こんな演奏ができます」とメンバーは異口同音。
「五十四年発足以来、グループの演奏レベルも年々向上し、レパートリーも五十曲余り。「曲づくりはみんなのディスカッションです」と、メンバーの一人谷村正廣さん。ト

練習にもさらに熱が入ります。

撮影/水谷進

市民のひろば



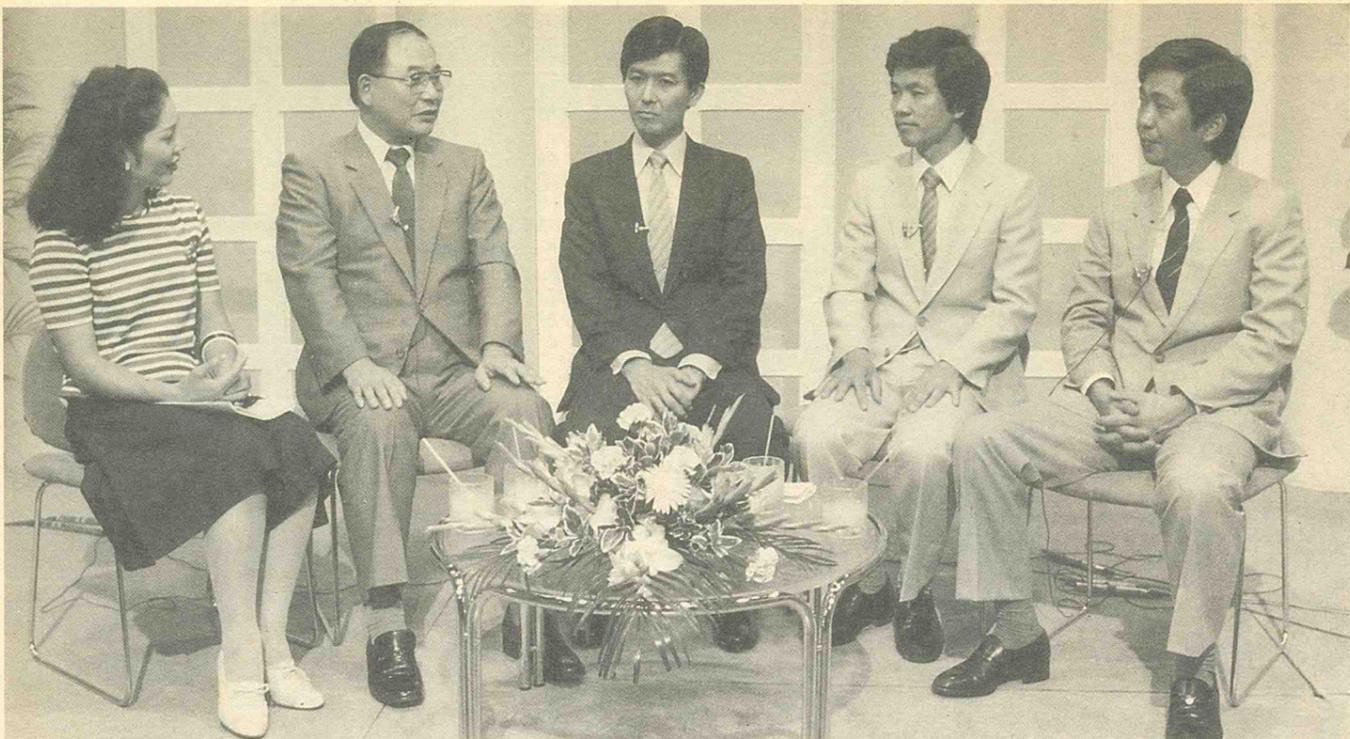
「市民のひろば」は、MBCから放送されます。放送日時は、毎月第三日曜日を除く、日曜日の午前八時から十五分間。ただし、第四日曜日は三十分間放送。

地場産業の明日を担う

長い歴史と伝統にはぐくまれ、郷土に住む人々の生活に密着した実用品を提供してきた地場産業。市民生活に豊かさや潤いを与え、活力ある地域社会を創造するために、地場産業の振興は市政の上でも重要な課題となっています。スタジオには大島紬、薩摩焼、屋久杉工芸のそれぞれの分野から意欲にあふれる若手の後継者の方々を迎え、助役を囲んで今後の発展に向けて大いに語り合っていました。

出席者(敬称略)

本場大島紬織物(協) 青年部会
 中川 進
 錦江陶芸・専務取締役
 野崎 秀範
 古山 喜一
 高島 康子
 鹿児島市助役
 赤崎 義則
 司会



高島 助役さん、今日は鹿児島の地場産業について、色々とお話を伺ってまいりたいと思いますが、助役 そうですね。鹿児島には、国の伝統的工芸品の指定を受けた大島紬をはじめ、薩摩焼、屋久杉や竹の工芸品、さらに全国的なブームを呼んでいる焼酎など、優れた地場産業が数多くあります。

そして、それらのすべてが郷土の豊かな自然や風土にはぐくまれ、人々の心に支えられながら長い歴史を受け継いできている、私どもの日常生活や郷土の文化と深いつながりをもちながら発展してきているわけですね。また、地域経済という面から見ても、中小企業を中心としている本市の産業の中で中

核的な役割を果たしています。今日は、これら地場産業の将来を支える若い方々をお迎えして、皆さんの取り組みを紹介いただくとともに、今後の発展に向けて大いに語っていただくというこ

点と線で織りなす 伝統の美しさ

高島 それでは、ゲストの方々に伺ってまいりたいと思います。中川さん、大島紬といいますと私たちが女性にとっては本当にあこがれの着物なんですけれども。中川 そうですね。人々の生活様式とか、価値感というものが目まぐるしく変化していく中で、一貫

して高い評価を受けている織物は、大島紬の他にはないままでいられています。点と線で織りなす伝統の美しさと着心地の良さ、そして、親から子へと二代着られる丈夫さ、これらのいずれをとっても日本一だと、業界で仕事をしている者として自負しています。



中川さん

高島 それだけに、織り上がるものでは随分と手間暇のかかるもの

なのでしょね。

中川 先染め織物の中では日本が一番古いものでして、デザインから糊張り、縮め、染色、そして、最後の織りの段階まで大きく分けても三十数工程という複雑な手作業によって作り上げられています。それぞれの過程で、熟練された方が精魂をかたまわけているわけですが、現代生活にマッチするようなデザインの開発や新しい技術による生産性の向上という面でも努力を続けているところですね。

助役 市内で大島紬の生産に関係しておられる方は約二万人、その年間生産額は二百億円にも達するといわれておりますから、鹿児島市でみますと、まさに一大産業という評価ができると思います。

その大きな組合を引っぱって、いく新しい力として、青年部会に対する業界の皆さんの期待も大きい



赤崎助役

優美な肌の白

豪快、素朴な黒

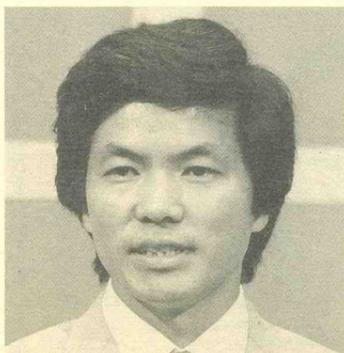
高島 続きまして、薩摩焼の業界からお招きした野崎さんですけれども、歴史の方も大変古いものだと思います。

野崎 薩摩焼は約四百年前、島津義弘公が朝鮮から優れた陶工を連れ帰ったのが始まりといわれています。白薩摩は藩主の御用品として、黒薩摩は庶民用に焼かれて

いたのですが、長い歴史の中で多種多様な手法が生まれ、よその産地にはみられないほどのバラエティーに富んだ焼き物でもあります。高島 画面の方は生産工場のような感じですね。

野崎 ええ。私どもでは、できる

だけ安く、広く一般の方々に使っていたらダメなようにと、機械化を図りながらの量産という面にも力を入れていきます。また、薩摩焼に対する県内外の皆さんの理解と関心を深めていただく場として、工場見学も行っており、修学旅行生の皆さんには絵付けの実習なども好評のようです。



野崎さん

助役 一般に優美な肌の白、豪快素朴な黒といわれておりますが、薩摩焼には土の持つ素朴な温かさに加えて、風格といったものを感じますねえ。

ところで、最近はずの多様な化ということが言われていますが、消費動向の方は、いかがですか。野崎 今までは、記念品とか、お土産品にということですが、作れば何でも売れたんですね。しかし、最近では、自分で使う品物、生活の中に生かせるものということ

で、食器類などの実用品が好まれているようです。

太古の歴史を刻む

美しく、緻密な木目

高島 さて、屋久杉工芸品に取り組んでいらっしゃる古山さんですけれども、屋久杉の木目の美しさは本当にすばらしいものですね。

古山 そうですね。屋久島では樹齢千年以上を屋久杉、千年未満のものを小杉と呼んで区別していますが、毎年、台風にうたれながら苦しんで育った長い年月にわたる年輪が、あの木目の細やかさにつながっているということです。その他、油分が多く、腐りにくい、使いこんでいくほどにツヤが出てくるといった特徴もあります。

ご存じのように、国の特別天然記念物に指定されており、自然保護の立場から伐採も制限され、最近では、出てくる量も随分少なくなってきたというわけですね。

高島 そうすると、お仕事をなさる上でも色々大変ですね。

古山 現在でも、この貴重な原木を天井板、壁板、欄間などの建材、タンス、テーブルといった家具類、また、磨材や小物は観光土産品と



古山さん

して余すところもないぐらいに活用しています。やはり、業界全体の課題として、もっと高度な利用による製品開発を...というところで、私の所でもコンピュータを使った最新の機械を導入して取り組んでいます。

高島 実際に、どのような作業ができる機械なんでしょうか。

古山 プログラムどおりに材料が正確に製材できますし、彫刻的な作業もできます。これによって、相当な作業の能率化が図られています。もちろん、最終的には職人の長い経験と勘によって丹念に仕上げていくわけですが...

助役 なるほど...世界の銘木といわれ、その木肌には太古の歴史の息づかいさえ感じられるような屋久杉製品ですが、最新の機械を導入されて、経営面からみたコストダウンや新しい製品開発につな

げているということですね。私はこのような伝統工芸を一つの産業として育てていくためには、非常に大事なことだと思います。長い歴史の中で培われた「美」、新しい生活にマッチする「用」。皆さん方は、この用と美の世界を追求し、立派に成し遂げておられる...、お話を伺っております、非常に感銘を深くしています。

市民生活に潤いを

地域社会に活力を

高島 さて、これからの取り組みや抱負という点についてもお話を伺ってまいりたいと思います。中川さんから、いかがですか...

中川 着物離れということがいわれていますが、私たちの方で、大島紬を着る機会をもっとつくりだしていくことが必要だと思います。そのために、業界あげてのPRや現代社会にマッチした着物のあり方というものをさらに研究していきたいですね。

それから、青年部の活動として、今年から奄美の青年部会との交流を進めていく計画で、将来的には商標の一本化というものを目指したいと思います。地元

皆さんにも大島の良さをご理解いただいて、もっと愛用していただくようお願いしたいですね。

野崎 焼き物というのは、人々のふだんの暮らしの中で使われ、生活に潤いを与えるというのが本来の姿だと思います。薩摩焼自体に、美しいが実用向きではないという面もありますので、それらを克服して、いかに作り込んでいくかということだと思います。

また、業界の皆さんと協力して黎明館の壁面に薩摩焼の陶板を設置しましたが、このような室内インテリアの分野も、今後開拓していきたいと思っています。

古山 屋久杉製品というと、これまで高級品というイメージが強くて、なかなか皆さんの手もとに届かなかったということもありました。長所を生かしながらの有効利用ということで、薄くスライスして他の素材の表面に張るとか、製品の中にポイント的に使うなど、新しい技術やアイデアを生かして

もっと実用的に使っていただけるような魅力ある製品をつくってきたいですね...

高島 大変、意欲的な皆さんのお話でしたけれども...、助役さん、

いかがですか。

助役 鹿児島県の地場産業、どれ一つをとっても、薩摩のよき気風を受け継ぎ、郷土に住む私たちの心ふるさとそのものだという感じを強くしています。

市民生活に豊かさや潤いを与え活力ある地域社会を創造するため、行政といたしましても、地場産業の発展に向けて、様々な面から大いにバックアップしていきたいと考えているところです。

今日、お迎えした三人の方々は、これからの業界を背負う若い方々ですから、それぞれ創意工夫しながら、大いに頑張ってくださいと思いますね。

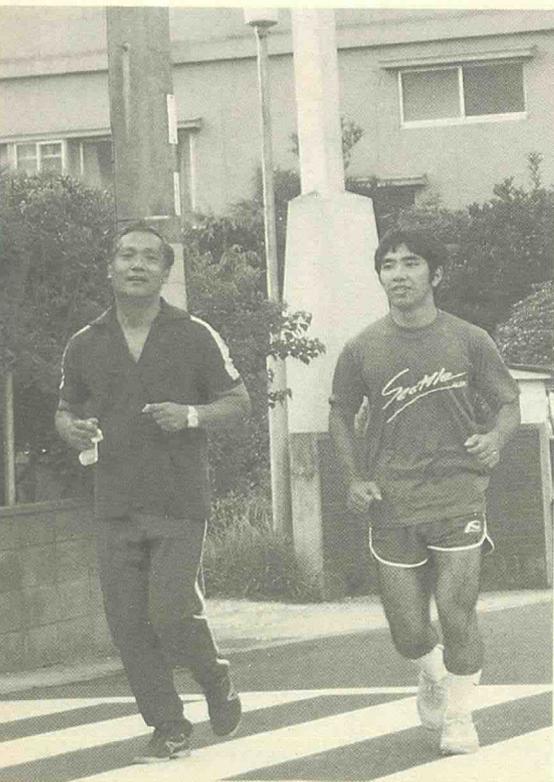
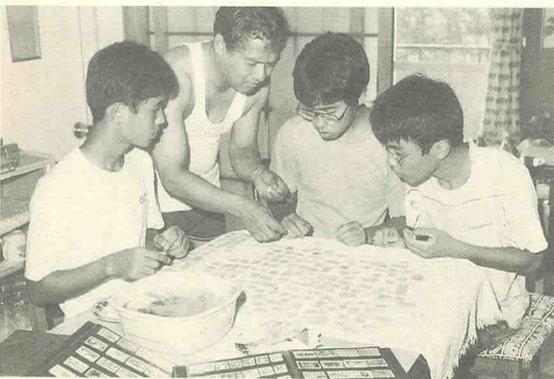
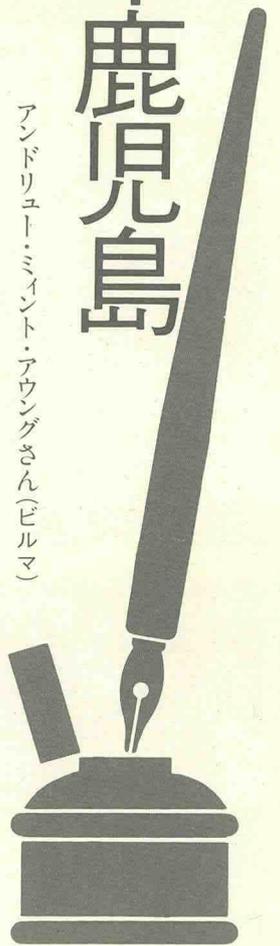


高島さん

高島 皆さん、今日は、どうもありがとうございました。

ハロー鹿兒島

アンドリュート・ミイント・アウングさん(ビルマ)



「桜島は、私のガールフレンドです」

帰途、いつも桜島の方を向いていたくて、後ろ向きに歩いてしまふこともあるとか。「鹿兒島は海に近く、山があり、少しばかり、ビルマに似ているみたいだ」

国際的な感覚を身につけて欲しいという父親の考えで、十四歳の時、すでにマレーシアの学校に学ぶ。「医者を目指していたんですが、

大病をして入院中、近くの子供たちの勉強を見ているうちに、教える楽しさを知ったんです」

米国のアリゾナ州立大学で教壇に立っていた時、純心学園の乾シスターから誘いを受けて、鹿兒島に行こうと決意した。鹿兒島に来

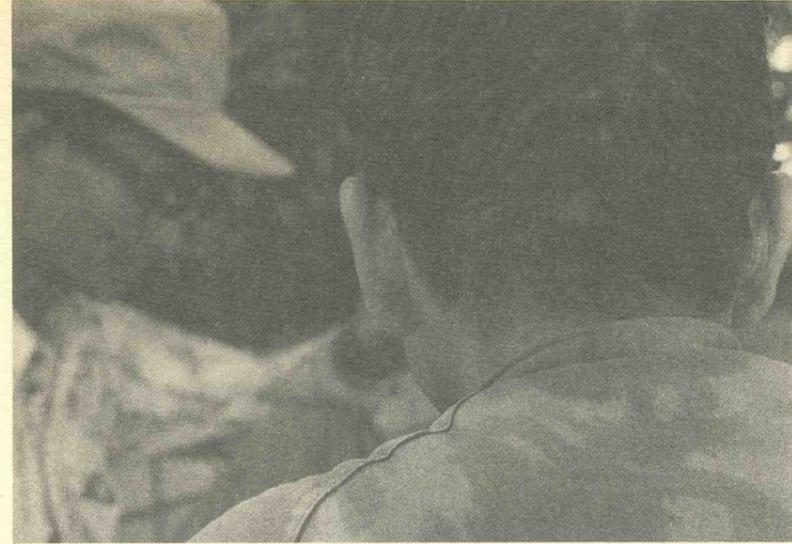
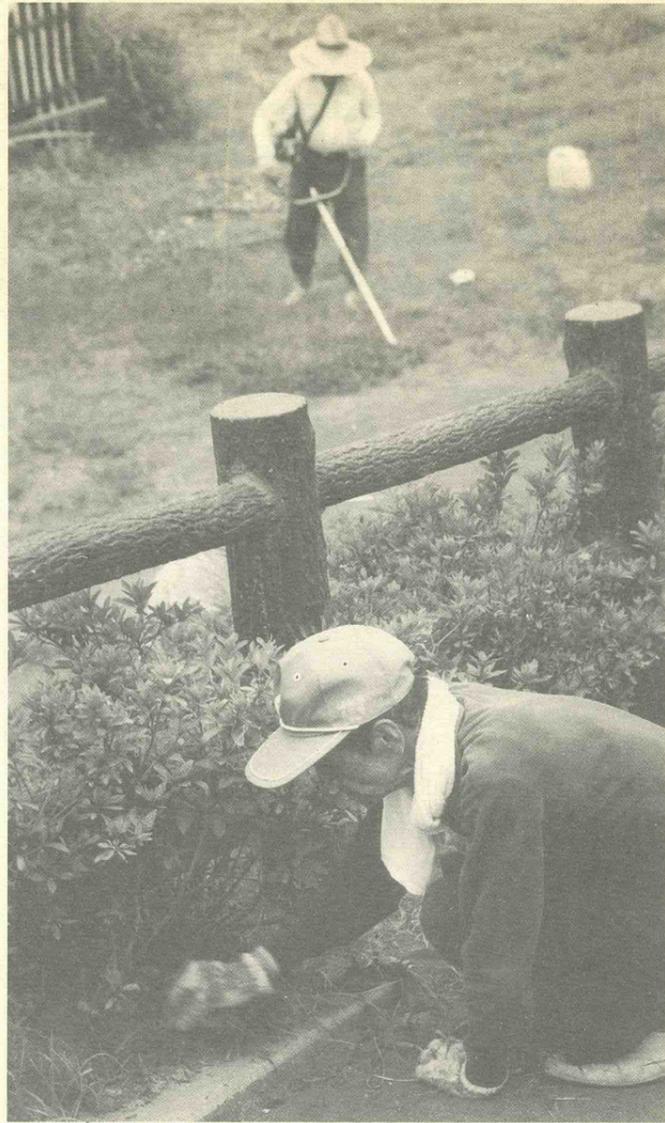
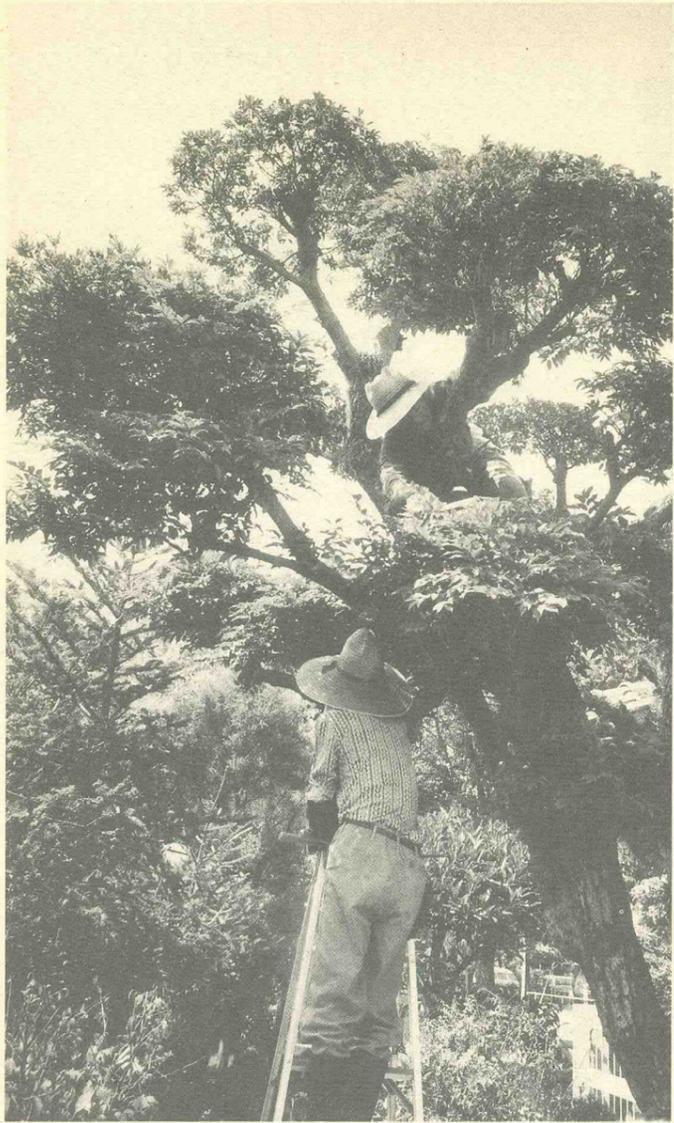
て三年目、浅黒い肌、同じ東洋人、全く違和感がない。授業は週七回、ラ・サール学園でも週一回の講義。

「毎朝、ジョギングは欠かさない

し、水泳や登山をしたり、とても元気です。趣味は切手収集、アクセサリー作り、折り紙など、こまごまとしたものが多いですね。出来上がった物を子供たちにあげるのがうれしくて……」

「心を開いて、相手を理解しようと努力すれば、どこにいても快適に住めますよ。私は教師だから、いつも心を開いていた」

敬謙なクリスチャンでもある。



あ・な・た・の フォトサロン

働くことの喜び

シルバー人材センター

シルバー人材センターは、老後の生きがいのために、豊富な経験を生かして働こうとする人が集まった所。一般事務、あて名書き、家事手伝いから降灰処理、草取り、せん定、大工仕事、アンケート調査など、種々雑多の仕事をしている。先日、私は暑さの中で働く会員の姿を追った。仕事は草取り、せん定、よほどの体力、経験がなけ

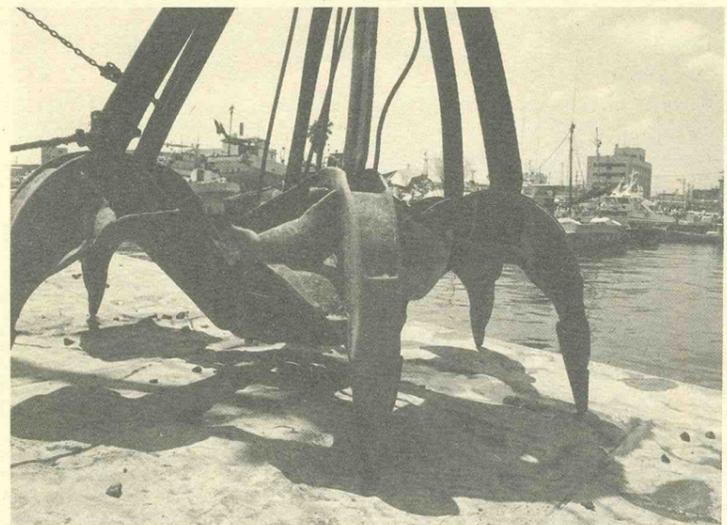
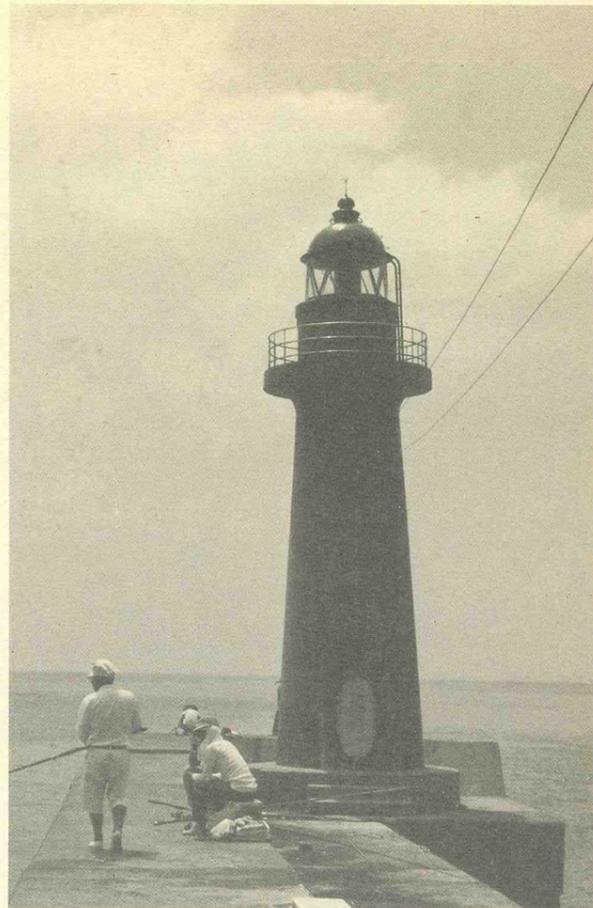
れば出来るものではない。会員の一人は「健康で働けることがいちばん幸せです。休憩時間の雑談も、また楽しい」と、まだまだ若い。夏の一日、さわやかな汗をそこにみた。高齢者に働く機会と場を提供している「センター」、みんなで応援したいと思う。

写真と文／山田資夫

あ・な・た・の
フォトサロン

港、みなと

子供のころを港町で過ごした私は海が、港が好きです。

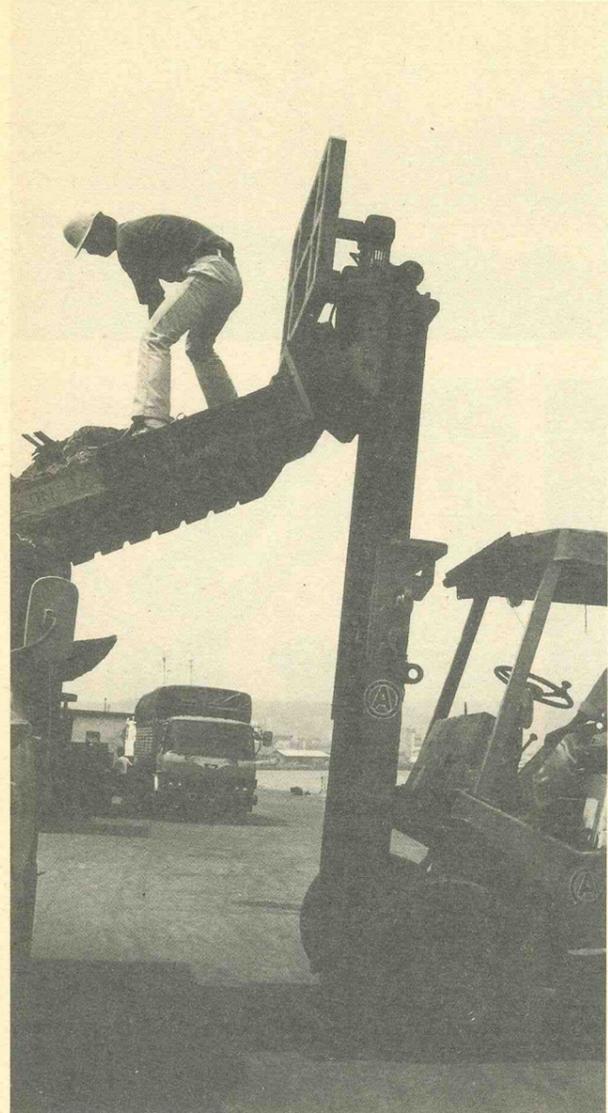
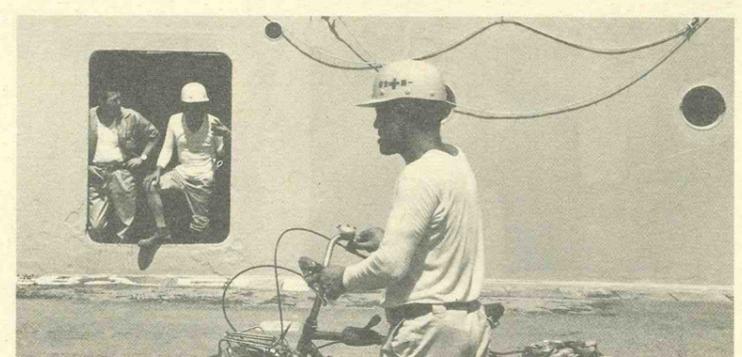


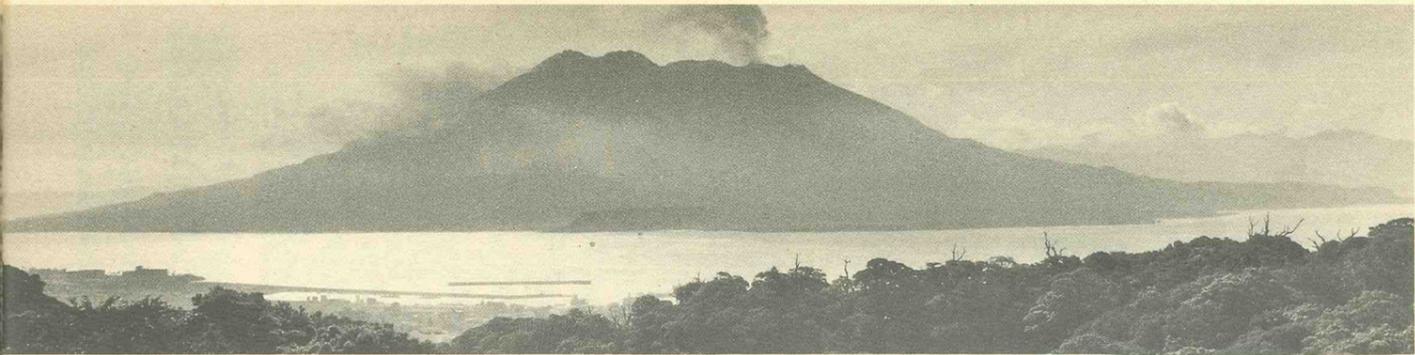
波に反射して海面を駆け回る太陽、舟溜りでは波間にカラフルな船の模様が映り、消えていきます。今、私は港の表情を撮りたいと思います、日曜日ともなると岸壁を歩き回っています。

港で働く人々は、だれもが人なつこく、気さくです。青銅色に焼けた顔や腕は、たくましいという表現がピッタリです。

里帰りや夏休みで旅をする人びとが大きな荷物を抱えて船に乗り込んでいきます。やがて、船はたくさんのドラマを乗せて出航していきます。

写真と文／古里明代





照国神社と城山

館馬場の
いちよう並木がいい。

県美術協会会員 大田 義枝
ここからの鳥居と建物、面白い
角度でしょ。ワツと迫る感じで。
幼いころ、六月灯は楽しかった
わ。母が作ってくれた浴衣を着て
夜店でいろいろ買って…。学校で
灯ろうの絵を描かせるの。で、ど
こに自分の絵があるかなって。そ
のころから描くの好きでした。

探勝園の木立をぬって朝の光が
ほんとにきれい。私は、季節を感
じたい時に歩くんです。今日は、
アツ、もうすぐ秋かも…って感じ
をつかんだわ。風が秋ですよ。
城山には、やはりクスノキが似
合う。迫力がありますね。

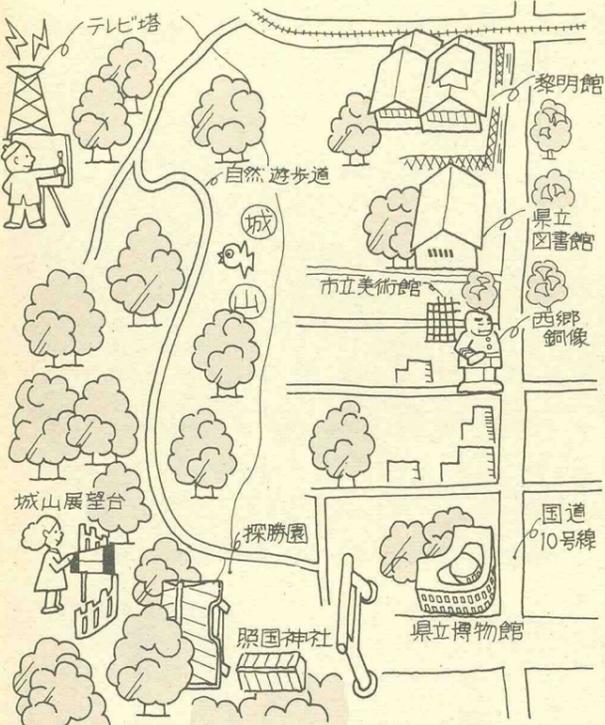
秋、山の木々が少し紅葉したこ
ろ、テレビ塔の辺りからの眺望は
なかなかいいですよ。城山の上に
桜島があるって感じですね。

絵を描く人が多くなりましたね。
特に、主婦が描くのは世の中が豊
かになったからでしょうね。
絵の題材としては、街のビルが

好きですね。面白いし、かわい
いんです。ビル同士が何か話してい
るような…。窓辺の辺りが温かい
んです。小さな空間に、チョッと
植木を置いたり…。人間って、一
生懸命工夫して暮らしてるんだな
って。やはり、自分が詩を感じな
きゃ、描けませんね。いづろから
山形屋辺りの建物から見た街の情
景がこれにピッタリですね。

どこを描いたの？って聞かれる
ことがあるけれど、皆さんの目に
触れなかった、私の欲しいものが
心に現れることがあるんです。で、
とがった屋根が欲しければ、それ
をセツトするとか。それが心象画
ではないかなと思ってるんです。

今、美術館のできるのが楽しみ。
早く、すてきな館に出会いたいわ。
最近、一番すばらしかったのは青
葉の季節に図書館から見た、ちよ
うの木でしたね。緑が窓に映えて
顔まで緑色になってしまみたい。
この図書館から黎明館にかけて
いちよう並木がすごくいい。古き
良き時代の都会っぽさというんで
しょうか。お堀や城壁などがある
のは、とてもいいですね。近代的
な建物とマッチして…。(談)



●取材メモ
「料理やファッションも絵と同じ。
美に感動する心が創る喜び、個性
に合うものを追求する楽しさにつ
ながります」。しなやかな感性と飾
らぬ庶民性をもつ薩摩の女性。
15歳から油絵を。公募展出品は、
昭和53年の県美展が最初。翌年奨
励賞、56年「街の詩」で知事賞。南
日美展、創元展にも出品、昨年、
第1回女流美展特選。今後は、好
きな小品を趣味として描いて楽し
みたいと…。

わたしの散歩道

6月3日・ドカ灰、市街地を襲う

活発な活動を続ける南岳は大量の火山灰を降らせ、市街地を「真黒の世界」に塗りかえました。



6月19日・国土庁長官、桜島を視察

稲村国土庁長官が2日間の日程で来鹿。火山活動に苦しむ桜島の実態や農作物の被害状況などを視察しました。



7月14日・曾我どんの傘焼き

鹿児島三大行事の一つ「曾我どんの傘焼き」。川岸には約3000人の市民が集まり、真夏の夜を彩る勇壮な炎の宴を楽しみました。



6月23日・山形市、サクランボキャラバン隊

北国の初夏の味覚をどうぞ…。キャラバン隊の一行は市役所訪問の後、道行く人々にサクランボをプレゼント。

7月2日・外国人英語教師着任

今年度、招かれたのはトッド・スチーブンスンさんとメリアン・ホリさんの二人。市内の中学、高校で発音や会話の指導に当たります。



8月3日・清水小の錦江湾横断遠泳

風・波・潮の流れも穏やかで絶好の遠泳日和に恵まれ、参加した児童138人全員が元気に完泳。さつまっ子の心意気を示しました。

7月22日・マイケル・パース市長夫妻、ユーカリを記念植樹

姉妹都市盟約10周年を記念して来鹿したパース市親善訪問団の一行14人が赤崎義則助役の案内で平川動物公園を視察しました。



7月31日・長沙市から科学技術考察団

友好都市長沙市の科学技術考察団一行が市役所を表敬訪問。張団長が斉辰瑛市長からのメッセージを読み上げ、友好を温めました。



さつま
首人形 鹿島

吉野町

大石兵六、弥五郎どん、島津の白狐、鈴懸馬、日高山伏どんなど鹿児島に伝わる民話、祭りの主人公、歴史上の人物がよみがえる——それがさつま首人形。

鹿島さんが三十年余り前、創作したもの。串の先に、人形の形になるまで三回ほど紙粘土をくっつけ、乾燥、形が出来上がったら、これに和紙を張る、そして絵付け。一本一本が手ひねりです。素朴だが、色彩は豊か。一つ一つ違う顔の表情には、思わず、ほほえんでしまいます。

六畳ほどの仕事部屋、人形に囲まれて、「つくってくれ、と人形が誘うんです」と鹿島さんが笑った。



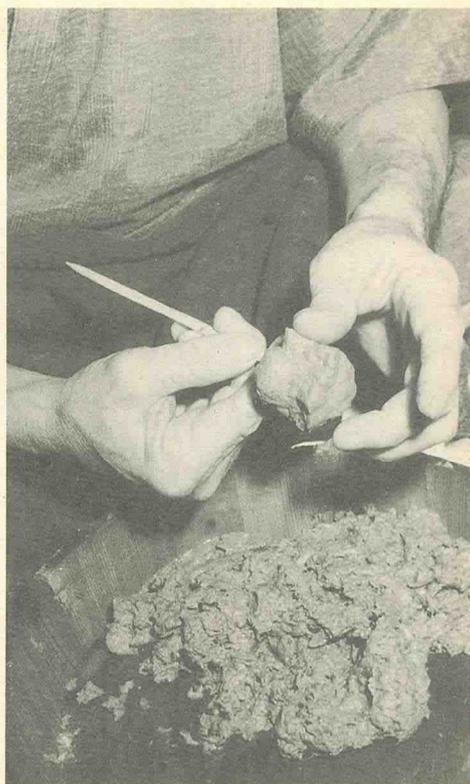
20種類以上の首人形、出番を待つ



一筆一筆に愛情がこもる



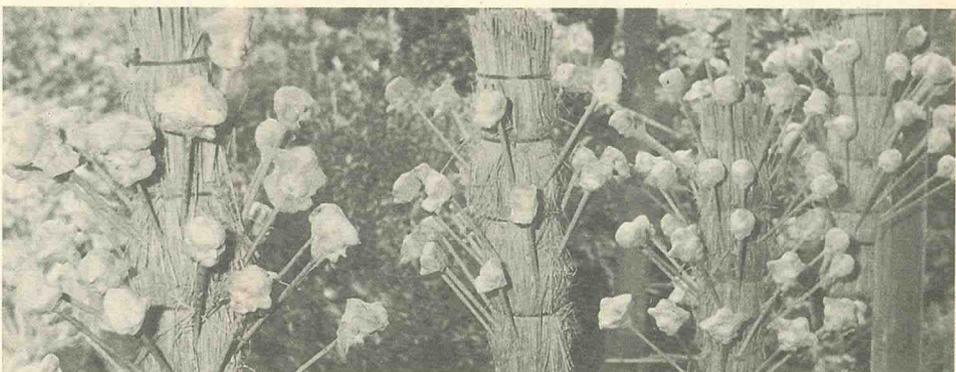
土絵具や水性絵具などで絵つけ



紙塑(しそ)首人形は全国でも珍しい



個性豊かな表情にイメージが広がる



軒下で乾燥、仕上げを待つ人形たち

編集後記

▼「市民フォト鹿児島」第18号をお届けします。

▼ドカ灰が、しばらく市街地から遠のいたと思っていると、大型の噴石が有村地区へ。故郷への断ち難い思いが、生命の危険を感じながらも、人々をこの地に踏みとどまらせている。その心情を思うと、じっとして居れない。噴石の 畑に黙々鉄を打つ正司”

▼第18号では、古い道「鹿児島の馬場」を特集しました。人々の生活の利便のために出来た道は、生活の変化や交通手段をはじめとする社会情勢の変化に対応して形や用途を変えてきました。

鹿児島市には多くの古い道があり、昔の人々はそれぞれの用になんだ名を冠して〇〇馬場〇〇通り、〇〇小路と呼んでいました。今では名前だけをどめる道もありますが、先人の生活に思いをめぐらせるのも楽しいのでは…。



市立美術館

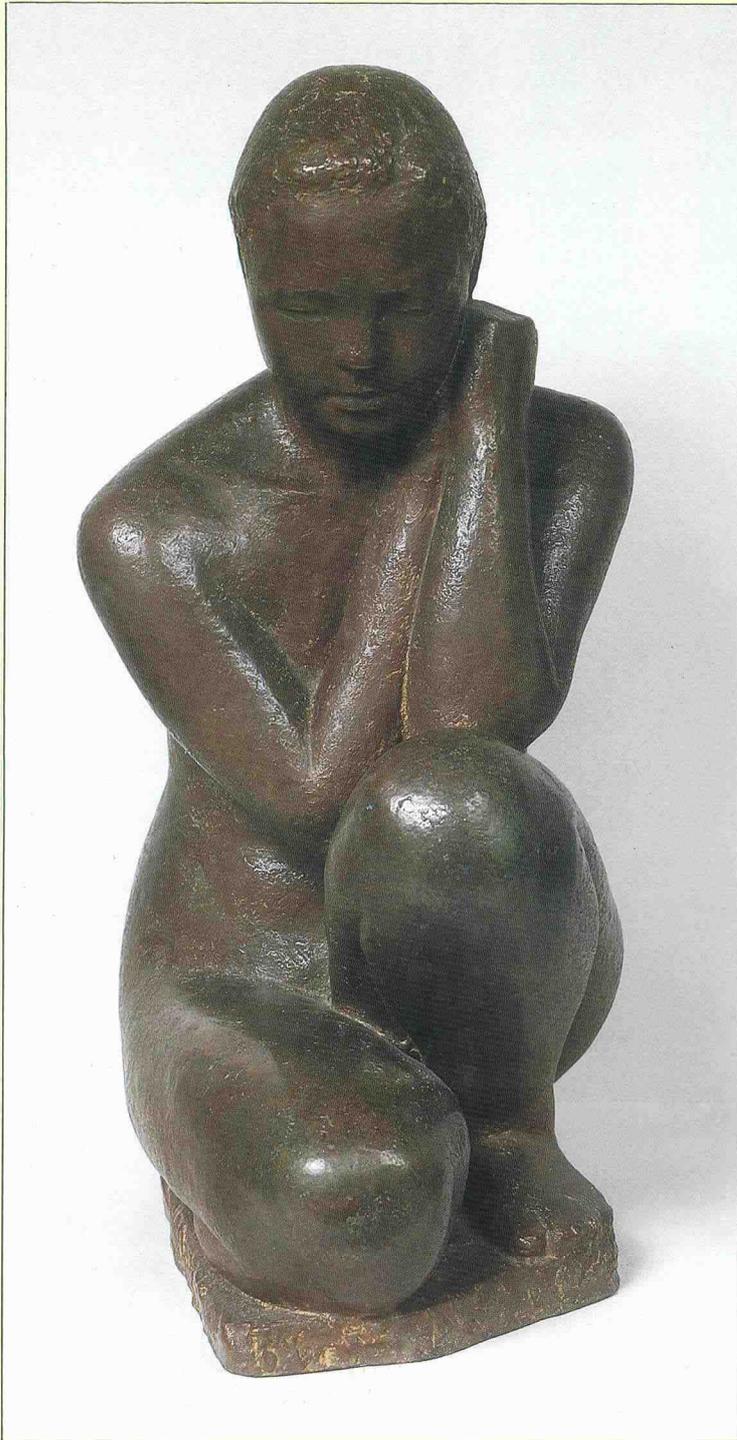
裸婦座像

安藤

照

〈作者〉一八九二年(明治二十五年)鹿児島市生まれ。二中から東京美術学校彫刻科に入学。朝倉文夫に師事し、在学中に帝展に入選、以来、特選を重ね、大正十五年、第一次帝国美術院賞を獲得、昭和二年に一躍、帝展委員審査員となる。昭和二十年五月、東京大空襲により五十四歳で没した。

東京渋谷駅前「忠犬ハチ公」、鹿児島の「西郷隆盛像」の制作者として名が知られている。



市立美術館

学芸員 原田 茂

〈解説〉安藤照の作風は、初期においては朝倉文夫の影響を受けて写実的な表現がみられたが一九二九年(昭和四年)、塊人社を結成、彫刻を「量のかたまり」としてとらえ、彫刻の本質的な造形性、特に量感の表現の追究に心を砕いた。

この「裸婦座像」は、一九四二年(昭和十七年)の作で、後期の作品である。高さ六十五センチの中品であるが、うつむき加減の頭、立てた片ひざ、肩で組んだ両腕という均整のとれた安定した構成であり、肩やひざの丸みと縦に組んだ腕がうまく調和しており、緊張感を感じさせる。

また、表面的な形似を捨てて無駄を省き、単純化された形体の追究がなされ、量の把握や処理がたくみで、豊かな量感を感じさせる女性のふくよかな感じがうまく表現されている作品である。



ご協力ください

乾電池の回収で 良い環境を いつまでも!!



回収箱へ

(単1・単2・単3乾電池)



お近くの電器店へ

(ボタン型電池)

●問い合わせ / 市環境事業部管理課 ☎241111

早期発見と予防のために

進んで受けなう、巡回健診

一般健康診査

高血圧・脳卒中・心臓病・糖尿病・肝臓病
腎臓病・動脈硬化・肥満などの検査と指導

がん検診

胃がん・子宮がん・乳がんの検査

住民検診

結核のレントゲン撮影

